

講義名: 国際政治事情研究A <春> 曜日: 月3 担当教員名: 松村 昌廣		ナンバリングコード: POLS2440 曜日2:	
研究室: 聖アンデレ館10階1010号室		オフィスアワー: 事前アポで月～金(秋学期中)で双方の都合で日時は柔軟に行います	メールアドレス: masahiro@andrew.ac.jp
授業形態			
『講義』			
講義・演習概要			
ビデオ等其他資料を活用して、全体としては初級レベル、時として中級レベルの講義内容になるよう講義を進める。ただし、ここでいう「初級レベル」というのは簡単という意味ではない。当然、高校レベルの知識、大学生としての社会科学の思考や基本的知識を習得していることを前提にしている。こうした準備ができていない学生には単位の取得は困難であろう。この講義により発展途上国を対象とする地域研究において政治、経済、社会の諸側面から、いかに総合的な分析に取り組むかを実例を示しながら学生に理解させることを目標とする。			
学習(到達)目標			
政治学、社会学、経済学など社会科学の基礎をよく理解した学生を念頭に講義を行う。また当然、高校の世界史、日本史、地理、政治経済、現代社会などの関連科目をしっかり学習してきたことを前提に行う。 この講義では発展途上世界を比較分析に必要な基本的な発想、着眼点、分析手法を会得するためはじめに初歩的な理論的考察を行い、その後いくつかの重要なケーススタディーに取り組む。しかし、広大な発展途上世界を全てカバーすることは不可能であるから、多様な理論の適用可能性、時事的重要性に鑑み、民族紛争、宗教紛争、国際テロを取り扱うこととする。			
講義・演習計画			
【第1回】 国際関係論と地域研究			
【第2回】 システム論的アプローチ			
【第3回】 比較研究アプローチの危機・・・「理論の島々」			
【第4回】 民族紛争(1)アイデンティティ、宗教、民族			
【第5回】 民族紛争(2)ユーゴスラビア紛争			
【第6回】 民族紛争(3)コソボ紛争			
【第7回】 民族紛争(4)民族紛争(5)フランスにおける移民問題・・・アラブ系移民を中心に			
【第8回】 民族紛争 まとめ			
【第9回】 国際テロ・アフガン問題(1)国際政治と宗教(イスラム教)			
【第10回】 国際テロ・アフガン問題(2)国際政治と宗教(ユダヤ教)・・・イスラエルを焦点に			
【第11回】 国際テロ・アフガン問題(3)中東戦争			
【第12回】 国際テロ・アフガン問題(4)アフガン反テロ作戦			
【第13回】 国際テロ・アフガン問題(5)イラク戦争			
【第14回】 国際テロ・アフガン問題 まとめ			
【第15回】 全体のまとめ・試験			
成績評価の方法			
試験	100%	レポート	その他
コメント	テスト(100%) ただし、受講者が少ない場合、テスト(50%)、授業への積極的な参加(討論、発表、授業内課題等の評価を含む)(50%)。 コロナ禍で遠隔講義となった場合は、M-PORTを介したレポート試験とする。		
テキスト			
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
参考文献			
松村昌廣『動揺する米国覇権』現代図書。 高木徹『ドキュメント 戦争広告代理店～情報操作とボスニア紛争』講談社文庫。 山本賢蔵『右傾化に魅せられた人々―自虐史観からの解放』河出書房新社。			
事前および事後学習の指示 (事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間)			
講義に合わせて、参考文献の該当部分を予習・復習で読解すること。			
その他備考(担当教員用)			
キーワード			
備考(管理者用)			
(旧:国際政治事情研究)02～19E・SS・SW・B・L・J			